

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定、実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①多様な進路選択に対応できる教育課程を編成し、生徒の希望にえられるように学習の機会を提供する。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。</p> <p>③学校行事や生徒会活動を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p>	<p>①授業力を向上させ、生徒が希望する進路が実現できるよう指導する。</p> <p>②生徒の学習意欲を引き出すため、ICTを活用した授業を展開する。</p> <p>③ポストコロナ時代に合わせた学校行事や生徒会活動を開催し、生徒が充足感を得られるような主体的な活動を目指す。</p>	<p>①テーマを設定した研究授業等で各教科の取組を集約し、職員全体に周知する。</p> <p>②学習コンテンツを活用した教員向けの研修会を年3回以上実施する。</p> <p>③コロナ禍で新たに習得した知識・技術を活かしつつ、生徒会本部や各種委員会と協力し、生徒と丁寧な意見交換をしながら、生徒が主体的に運営・活動できるように支援する。</p>	<p>①生徒による授業評価、研究授業の反省</p> <p>②生徒による授業評価、研究授業の反省</p> <p>③各行事における生徒及び教員へのアンケートをとり、8割以上の満足度を得る。</p>					
2	生徒指導・支援	<p>①礼儀正しさを意識して、安心・安全な学校生活を送れるよう支援するとともに、個に応じた教育相談体制の充実を図る。</p> <p>②自分自身に目を向け、学校行事や部活動を通して、奉仕や協調の精神の涵養を図る。</p>	<p>①基本的な社会規範の定着を目指し、学校全体で継続的に指導を行う。</p> <p>①こころのサポート事業や相談箱の利用を通じて生徒が気軽に相談ができる体制作りを進める。</p> <p>②ポストコロナ時代に合わせた部活動等の運営を行い、生徒自身が成長を感じられるような主体的な活動を目指す。</p>	<p>①掲示物やHRなどで、日常生活の注意点を周知し、頭髪や服装なども定期的な指導を継続する。</p> <p>①各学年に教育相談係を置き、生徒へ周知するとともに、学年会での情報交換を密に行う。</p> <p>①学年会からの情報をもとに、必要に応じ速やかにケース会議に繋ぐ体制を築く。</p> <p>②積極的な部活動加入や行事への参加を促すとともに、顧問・教員と生徒がとよな支援体制を整える。</p>	<p>①指導対象者が減少したか。</p> <p>①生徒からの相談件数の推移を把握するとともに、適切なタイミングでケース会議が開けたか。</p> <p>②一年生の部活加入率70% (昨年約63%) を目標とする。地域との連携行事 (短歌交流や音楽交流) を実施できたか。</p>					

	視点	4年間の目標 (令和2年度策 定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①自己理解を深め、進路意識を向上させて、生徒一人ひとりが自らの進路希望を実現できる進路指導の充実を図る。	①外部の教育力を活用した授業や取り組みを充実させ、社会とのつながりのなかで自己理解を高めさせ、納得のいく進路実現を果たせるよう支援する。 ②キャリア支援の取り組みについて教員の理解度を高め、全体で生徒のキャリア支援にあたる意識を築く。	①総合的な探究の時間に外部講師等を招いて進路説明会や職業ガイダンスなどの進路支援とキャリア形成支援に関する講演会等ができるだけ多く実施する。 ①既存の高大連携の取り組み強化と新設置予定の長期休業中の特別講座を実施する。 ①②総合的な探究の時間におけるアンケートを各学年で実施し、目的や内容に対する生徒や担当教員の意識を高める。 ②学校ホームページに取組を随時更新していく。 ②キャリア支援や進路指導に関する取り組みや最新の情報に関する意識アップをはかるため、定期的に資料を配付する。	①ガイダンスや学校外と生徒が関わるキャリア的な取組を10回以上実施できたか。 ①大学への進学数を5%以上増加できたか。 ①高大連携の取り組みを計画実施できたか。長期休業中の特別講座を計画実施できたか。 ①②総合的な探究の時間におけるアンケート結果を目標達成に向け、各学年で上昇させることができたか。 ②学校ホームページを年間12回以上更新し、キャリアの情報発信を行えたか。 ②キャリア、進路に関する資料を、年間10回以上配布できたか。					
4	地域等との協働	①交流や協働活動を通して、生徒の社会性の育成を図るため、これまでの地域との連携を継続する。 ②学校運営協議会を中心とした、地域に開かれた学校づくりに取り組む。	①「4年間の集大成」という意識で、コロナ後の交流活動・協働に取組み、地域と共にある学校づくりをめざす。 ②学校運営協議会等により、外部からの意見・異なる立場からの視点を知る機会を設ける。	①全生徒が、少なくとも1年に1回は、交流・協働を行うように働きかける。他者のために活動する喜び・社会の一員としての自分に気づかせる。 ②令和5年度中に、3回の学校運営協議会を対面により開催する。	①生徒が、一人1回以上、交流または協働に参加できるよう働きかけることができたか。 生徒に「気づき」のある活動をさせることができたか。 ②学校運営協議会を開催し、意見を広く聴取することができたか。					
5	学校管理 学校運営	①環境に配慮した設備・備品等の整備・活用に取り組む。 ②防災意識の向上を図る。 ③人権についての知識を深め人権尊重精神の涵養を進める。	①教員の働き方改革を推進するため、教育環境の向上に努めるとともに、ICT機器の管理や備品等の整備・活用に取り組む。 ②防災意識の向上を図るために防災教育方法の再構築を図る。 ③人権について、知識と理解を深める。	①職員による円滑な業務を支援するため、ICT機器の管理や設備・備品等の整備・活用を推進する。 ②地域防災の意識を向上させるため、地域と連携した防災活動や、効果的な防災訓練等を実施する。 ③適切な研修テーマを設定し、研修計画を実施する。	①ICT機器の管理や設備・備品等の整備・活用を推進できたか。 ②防災避難訓練(防災教室を含む)を2回実施できたか。地域と連携した防災活動を実施できたか。 ③研修後のアンケート結果					

